

社会 (中1)

1 通過率

(1) 全体

平均通過率 (%)			対前年度比
平成17年度	平成18年度	平成19年度	
58.9	63.3	73.0	+9.7

- 年々平均通過率が上がってきており、取組の成果が見られる。
- はじめて平均通過率が70%を上回り、概ね定着しているといえる。

(2) 内容・領域

	平均通過率 (%)			対前年度比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
世界の地域構成	61.1	63.7	63.4	-0.3
日本の地域構成	62.2	66.2	73.2	+7.0
歴史の流れと地域の歴史	54.7	57.7	74.5	+16.8
古代までの日本	56.6	62.4	78.0	+15.6

- 地理的分野の「世界の地域構成」については、昨年度よりやや下がり、平均通過率も70%を下回っている。地球儀や様々な世界地図の適切な活用方法を身に付けさせることが必要である。
- 歴史的分野については、平均通過率が70%を超え、取組の成果が見られる。しかし、世紀を問う問題や歴史の流れを問う問題の通過率が低い傾向にあり、時代感覚や基本的な用語等について定着させていく必要がある。

(3) 観点

	平均通過率 (%)			対前年度比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
社会的な思考・判断	57.7	50.8	64.6	+13.8
資料活用の技能・表現	63.7	70.1	77.6	+7.5
知識・理解	58.0	64.1	73.5	+9.4

- 「社会的な思考・判断」の通過率は、昨年度より向上しているが、平均通過率は70%を下回っている。歴史的事象間の関係理解をとおして時代の流れをつかませたり、具体的な操作をとおして判断させたりする学習の継続が必要である。
- 「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の通過率は年々上がっているが、古代中国と当時の日本の関係を問う問題や世紀を問う問題など、昨年度も通過率の低かった問題についても課題が残っており、繰り返し指導していく必要がある。

2 通過率が低い問題

- ① ① (4) 正距方位図法とミラー図法の特徴に着目し、2地点間の最短距離を考察する問題 (47.6%)
- ② ① (7) アジア州の地域区分を問う問題 (42.2%)
- ③ ⑥ (6) 大化の改新の時代区分を問う問題 (48.3%)

3 特に定着を図りたい問題

- ① ② (3) (4) 日本の領土である北方領土と最東端の島名を問う問題
 (3) <H18: 39.9% → H19: 53.8%>
 (4) <H18: 71.4% → H19: 50.2%>
- ② ④ (3) 1542年は何世紀かを問う問題
 <H18: 45.7% → H19: 61.2%>

【 通過率が低い問題 ① 】

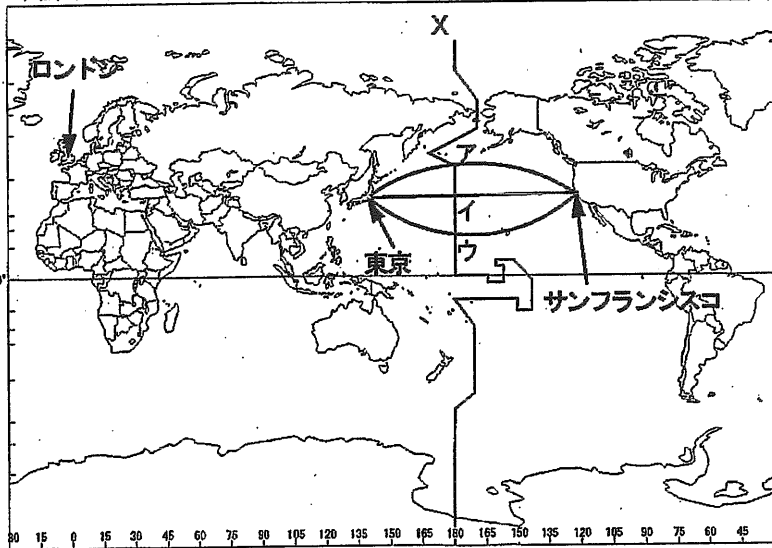
<p>1 (4) 正距方位図法とミラー図法の特徴に着目し、2地点間の最短距離を考察する問題</p>	<p>通過率 47.6%</p>
---	------------------

(4) 地図1中の東京とサンフランシスコを結ぶ線は、航空機で移動する場合の最短コースである。このコースを地図2に示すと、どれになるか。地図2中のア～ウから一つ選び、記号で答えよ。

(地図1)



(地図2)



誤答傾向の分析

- 誤答は、(イ)の直線が多かった。
- 正距方位図法は、中心からの距離と方位が正しく表された図法であるので、地図の中心である東京からサンフランシスコまでの最短距離は直線で示される。しかし、ミラー図法の場合は、方角等が正確ではない特徴があるため、最短距離は直線ではなくなる。球体である地球を平面である地図に投影しているため、すべてを正確には描けないこと、目的に応じて地図の特徴を生かして活用すること等についても理解させていく必要がある。
- 小学校や中学校での地球儀や紙テープ等を使っての体験的な活動と地図との関連を重視していく必要がある。



改善策

- 地球儀を使って、2地点間の最短距離を紙テープ等を用いて測定させる活動を位置付ける。また、ミラー図法は方位が正確に表されていないことを、地球儀を使って確認させ、最短距離のイメージを抱かせる。ここでは、地球儀や地図を実際に活用し、実感させることによって地図の特徴をとらえさせることが大切である。
- 同様に、主な図法についてもその長所、短所について実感させながら、目的に応じてどの地図を活用するのが望ましいか等について話し合う学習も考えられる。

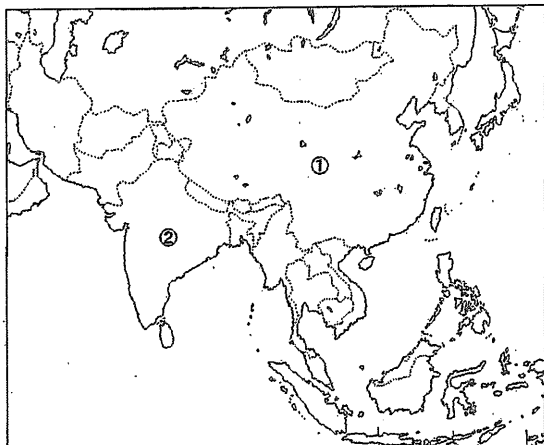
【 通過率が低い問題 ② 】

1 (7) アジア州の地域区分を問う問題

通過率 42.2%

(7) 世界は、六つの州に区分することができる。また、アジア州は、さらに細かい地域に区分することができる。地図3は、アジアの国々である。地図3中の①・②の国は、それぞれどのように区分されているか。①・②の区分の組み合わせとして正しいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

(地図3)



- ア 【 ①：南アジア ②：西アジア 】
 イ 【 ①：東アジア ②：西アジア 】
 ウ 【 ①：東アジア ②：南アジア 】
 エ 【 ①：西アジア ②：南アジア 】

誤答傾向の分析

- 誤答は、①：東アジア②：西アジア（イ）、①：西アジア②：南アジア（エ）の順が多かった。
- 昨年度もアジア州に関する地域区分を問う問題を出題（通過率59.1%）している。「イ」を選択した誤答が多いことから、中華人民共和国は東アジアに属することの理解は図られており、インドが南アジアに属することの定着が不十分であったと推測できる。



改善策

- 世界地図を活用して、主な国の位置と地域区分等をセットにして指導したり、大まかな世界地図を描かせる際に地域区分を意識させたりするなど、作業的な学習と組み合わせで指導していくことが考えられる。
- また、分類するためには分類する際の視点が重要であるので、生徒に地域区分を分類させ、教科書に示されている分類と比較させ、視点の設定の仕方について考えさせる授業を構想することも考えられる。

【 通過率が低い問題 ③ 】

6 (6) 大化の改新の時代区分を問う問題	通過率 48.3%
-----------------------	-----------

日本の文化の誕生

— <学習課題> —

飛鳥時代から平安時代にかけてどんな文化が生まれ、栄えたのだろうか。

写真Ⅰ	写真Ⅱ	写真Ⅲ
飛鳥時代	奈良時代	平安時代

(X) 飛鳥時代・・・わが国最初の仏教文化
↓ わが国最古の木造建築・・・a法隆寺

(Y) 奈良時代・・・唐と仏教文化の影響を受けた、国際色豊かな文化
↓ 都～b東大寺，地方～国分寺・国分尼寺

(Z) ○平安時代・・・遣唐使のとりやめなどを背景に生まれた日本風の文化
dかな文字の発明

メモ

710年平城京
↓
794年(e)

(6) 645年に中大兄皇子なかのおおえのおうじと中臣鎌足なかとみのかまたりらが蘇我氏そがをたおして、天皇中心の国家を目指した政治改革（大化の改新）をおこなった。その時代としてふさわしいものを下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 飛鳥時代より前の時代	イ 飛鳥時代
ウ 奈良時代	エ 平安時代

誤答傾向の分析

○ 誤答は、奈良時代（ウ）が多かった。

○ 問題文にポイントとなる平城京遷都が710年で奈良時代のはじまりであること、平安時代が794年からであること、飛鳥時代に関連するものとして法隆寺が記載されている。また、大化の改新は645年であることも示されている。

ここに示された645年，710年，794年や示されていないが聖徳太子が摂政に就いた593年等の時代を象徴する年代は、小学校での既習事項でもあり、重要な知識である。



改善策

○ 時代を区分する重要な西暦年については、指導の徹底が望まれる。年表を活用して、歴史の流れや時代の特徴を把握させる必要がある。また、日本の歴史だけでなく東アジアなどの外国とのつながりについても指導していきたい。

○ 歴史的事象についての系統的な指導にも心がけたい。小学校でどのような内容をどのように習ってきているのかを把握し、これまでの「基礎・基本」定着度調査の結果も踏まえ、定着の不十分なところを重点的に扱うことも必要である。

また、一定のスパンで繰り返し指導していくことも大切である。

【 特に定着を図りたい問題 ① 】

② (3) (4) 日本の領土である北方領土と最東端の島名を問う問題

(3) <H18 : 39.9% → H19 : 53.8%>

(4) <H18 : 71.4% → H19 : 50.2%>

(略地図)

<写真> 地図中の島c

ア おきのとりしま
イ 沖ノ鳥島
ウ みなみとりしま
エ 南鳥島
オ えとらふとう
カ 択捉島
キ よなぐにじま
ク 与那国島

(3) 日本固有の領土で、日本がロシア連邦に返還を要求している北方領土は、地図中ア～ウのどれか。正しいものを一つ選び、記号で答えよ。

(4) 下の写真は、地図中の島cである。この島は、日本最東端の領土であり、日本の200海里の経済水域を維持し、鉱産資源や水産資源を確保するためにとっても重要な役割を果たしている。この島の名前を、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

出題のねらい

- 昨年度に引き続き、我が国の位置と領域に関する問題を出題した。北方領土については、昨年度と同一問題で選択肢が4つから3つに減ったが、通過率は50%台であった。学習指導要領解説においても、北方領土の位置と範囲を確認させること等が明記されていることを確認したい。
- また、過去2年間は日本最南端の沖ノ鳥島を出題していたが、本年度は南鳥島を出題した。これらの知識は、領土問題や経済水域の問題を考えると、与那国島も含め必要な知識である。

学習の重点

- 国土に関する領域の問題については、小学校でも学習している。新聞やテレビなどの時事問題に関連するニュース等を取り上げたり、地図帳を活用して調べたり、歴史的分野の学習と関連させたりして、繰り返し学習や知識を強化する学習を行っていくことが大切である。
- 領域について学習する際は、日本の周辺の国々の名称や位置、首都、国旗等と関連させて指導することも必要である。これらの指導をとおして、地理的空間認識が形成されていく。さらに、習得した知識を活用する場の設定も図っていききたい。

【 特に定着を図りたい問題 ② 】

④ (3) 1542年は何世紀かを問う問題
 <H18:45.7% → H19:61.2%>

時代	平安	鎌倉	南北朝	室町	戦国	安土桃山	江戸
人物	A	B			C		
	(1147~1199年)	(1358~1408年)			(1542~1616年)		

※ 年表中の数字は(生まれた年~亡くなった年)を表している

(3) 年表中のCの人物が生まれた1542年は、何世紀か。次のア~エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 14世紀 イ 15世紀 ウ 16世紀 エ 17世紀

出題のねらい

- 昨年度に引き続き「16世紀」を問う問題を出題した。誤答は「15世紀(イ)」が多く、昨年と同じ傾向となっている。このことから、西暦年を世紀に変換させる知識や技能が十分でないことがわかる。
- 今年度は中学2年生にも同様の問題を出題したが、通過率は54%であった。

学習の重点

- 世紀の考え方は100年が基本である。1~100が1つのまとまりであることを具体的にとらえさせ、まとまりのイメージをもたせる指導が必要である。該当する西暦年は100のまとまりがいくつ必要かを考えさせ、世紀に変換していくことをとらえさせなければならない。
- 世紀についての学習は、授業で歴史的事象の西暦年を扱うときに出题するなど、定期的に指導したり、定着が不十分な場合は補充指導を行ったりすることも必要である。

社会 (中2)

1 通過率

(1) 全体

平均通過率 (%)			対前年度比
平成17年度	平成18年度	平成19年度	
63.1	66.9	72.4	+5.5

- 年々平均通過率が上がってきており、取組の成果が見られる。
- はじめて平均通過率が70%を上回り、概ね定着しているといえる。

(2) 内容・領域

	平均通過率 (%)			対前年度比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
世界の地域構成	71.1	85.3	85.7	+0.4
身近な地域	65.7	57.9	66.9	+9.0
世界の国々	66.9	66.0	73.0	+7.0
様々な面からとらえた日本	63.4	59.3	74.1	+14.8
近現代の日本と世界	60.4	69.8	70.2	+0.4

- 地理的分野の「身近な地域」については、昨年度より9%向上しているが、平均通過率は70%を下回っており、読図や縮尺等についての指導の継続が必要である。
- 歴史的分野の「近現代の日本と世界」については、平均通過率が70%を超えているが、歴史的事象の意味や事象間の関連について理解させていく必要がある。

(3) 観点

	平均通過率 (%)			対前年度比
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
社会的な思考・判断	55.1	59.8	71.6	+10.8
資料活用の技能・表現	73.1	70.1	67.0	-3.1
知識・理解	63.6	69.3	76.1	+6.8

- 「資料活用の技能・表現」の通過率が年々下がっている。写真や地図を活用した問題（地理・歴史を通して）の通過率が低い傾向にあり、社会科で求められる基礎的技能としての計算や読図等について定着を図る必要がある。
- 「社会的な思考・判断」「知識・理解」の通過率は年々上がっているが、基本的な用語の確実な理解を図っていく必要がある。

2 通過率が低い問題

- ① ② (4) 農業従事者一人あたりの穀物生産量の多少を問う問題 (40.1%)
- ② ⑤ (1) 明治政府の外交政策と関連する出来事を問う問題 (44.6%)
- ③ ⑤ (2) 廃藩置県が行われた目的を問う問題 (41.1%)

3 特に定着を図りたい問題

- ① ③ (1) (3) 地形図上の2地点間の実際の距離を問う問題と地形図から読み取れる内容を問う問題
 - (1) <H18: 37.2% → H19: 54.8%>
 - (3) <H18: 36.9% → H19: 62.6%>
- ② ④ (1) 1840年や1867年等の世紀を問う問題
 - <H18: 45.7% (中1) → H19: 54.0%>

【 通過率が低い問題 ① 】

2 (4) 農業従事者一人あたりの穀物生産量の多少を問う問題

通過率 40.1%

(4) 資料2をもとに、A国、B国、日本、オーストラリアの中で、農業従事者一人あたりの穀物の生産量が最も多いのは、どの国ですか。下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

(資料2)

国 \ 項目	農業従事者 (万人) (2003年)	田畑の面積 (千km ²) (2003年)	穀物の生産量 (百万トン) (2005年)	トラクターの 台数(万台) (2003年)
A	51,057	1,549	427	100
B	285	1,755	364	476
日本	231	479	12	203
オーストラリア	44	48	35	32

(世界国勢図会2006/07より作成)

ア A国 イ B国 ウ 日本 エ オーストラリア

誤答傾向の分析

- 誤答は、A国(ア)が多かった。
- 農業従事者一人あたりの穀物の生産量を求めるには、「穀物の生産量」÷「農業従事者」の計算を行う必要がある。誤答傾向から「もとにする量」と「比べる量」の関係が十分理解されていないことが推測される。
- 縮尺をもとに実際の距離を求める問題も課題があり、計算を必要とする問題について指導が必要である。



改善策

- 資料から人口密度などの単位量あたりの数値を求め、資料分析したり、傾向を把握したりするなどの学習経験を積み、単位量あたりの考え方から資料の読み取りが深まることを実感させる必要がある。資料分析の手法をより多くもつことは、資料活用の技能・表現を高め、社会的思考力・判断力も高めることにつながっていく。
- 数学科をはじめ他教科との関連も意図的に図っていく必要がある。

【 通過率が低い問題 ② 】

5 (1) 明治政府の外交政策と関連する出来事を問う問題	通過率 44.6%
------------------------------	-----------

(資料1)

年	主なできごと
1868年	五箇条の御誓文が発布される・年号を明治と改める
1871年	岩倉使節団が派遣される・・・・・・・・・・・・・・・・・・ A
1871年	廃藩置県が行われる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ B
1872年	学制を公布する・・・・・・・・・・・・・・・・・・ C
1873年	地租改正が実施される・・・・・・・・・・・・・・・・・・ D

(1) 資料2は、資料1のA～Dの(資料2)どれと最も関係が深いか。一つ女子留学生を選び、記号で答えよ。



誤答傾向の分析

- 誤答は、「学制を公布する(C)」が多かった。
- 資料2は女子留学生の写真であるが、「留学」というイメージから「学制」を想起したことが誤答の原因と予想される。
岩倉使節団とともに女子留学生が派遣されたことへの理解が十分でなかったことが指摘できる。



改善策

- 明治政府の諸施策について、それぞれの目的とその影響や結果などの因果関係の理解を図っていく必要がある。そのことにより、社会的諸事象のつながりが分かり、より説明力の大きい知識を習得することになる。
- 社会的事象のつながりを、用語や言葉、線や絵などを使って生徒に描かせメタ認知させたり、教師の指導的評価活動を生徒に還元したりすることをおして、関係的理解のさせ方を身に付けさせていきたい。

【 通過率が低い問題 ③ 】

5 (2) 廃藩置県が行われた目的を問う問題	通過率 41.1%
------------------------	-----------

(資料1)

年	主なできごと
1868年	五箇条の御誓文が発布される。年号を明治と改める
1871年	岩倉使節団が派遣される・・・・・・・・・・・・・・・・・・ A
1871年	廃藩置県が行われる・・・・・・・・・・・・・・・・・・ B
1872年	学制を公布する・・・・・・・・・・・・・・・・・・ C
1873年	地租改正が実施される・・・・・・・・・・・・・・・・・・ D

(2) 資料1のBの目的として適するものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 権力を中央に集めるため
- イ 近代的な軍隊をつくるため
- ウ 全国の藩主の力をより強くするため
- エ 工場を全国につくり、産業を発達させるため

誤答傾向の分析

- 誤答は、「全国の藩主の力をより強くするため(ウ)」「近代的な軍隊をつくるため(イ)」の順で多かった。
- 「ウ」を選択した生徒は廃藩置県の用語の中に「藩」があるため選んだものと推測できる。また、「イ」については富国強兵との取り違いではないかと思われる。いずれにしても、廃藩置県についての理解が十分でなかったことや明治維新に関する用語の理解や事象間のつながり等が不十分であることが伺える。



改善策

- 明治政府の施策について構造的に知識を把握し、板書やワークシートを活用して、知識のまとまりを整理し、全体のつながりとそれぞれの施策の意味をとらえやすくする必要がある。学習後に、生徒に事象間の関係について説明させたり、ノートに論述させたり、習得した知識を使って討論させたりするなどして、学習したことが定着しているか、学習したことが生かされているか等について見届けていくことも考えられる。

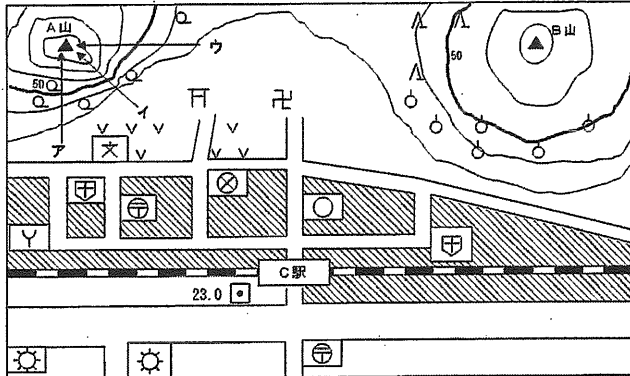
【 特に定着を図りたい問題 ① 】

3 (1) (3) 地形図上の2地点間の実際の距離を問う問題と地形図から読み取れる内容を問う問題

(1) <H18:37.2% → H19:54.8%>

(3) <H18:36.9% → H19:62.6%>

(資料)



(1) 資料の神社から寺院の間を定規で測ってみたら2cmであった。実際の距離は何mか。下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 500m イ 1000m ウ 1500m エ 2000m

(3) この資料から読みとれる内容として正しいものはどれか。下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア A山とB山の南側に針葉樹林が見られる。
- イ 小学校の周りには水田が見られる。
- ウ A山とB山の高さを比べたとき、高いのはB山である。
- エ 線路の南側には工場が見られる。

出題のねらい

- これまでも2万5千分の1の縮尺の地形図上の実際の距離を問う問題が出題されているが、通過率は芳しくない。縮尺の活用については、乗法と単位換算の技能が求められる。社会科の読図を行うために必要な技能である。
- 地形図の読み取りについては、地図記号や等高線の計曲線や主曲線の知識が曖昧なため、正答が得られないのではないかと考えられる。小学校で学習する地図記号や等高線等の知識を活用できるように指導していく必要がある。

学習の重点

- 実際に居住している地域(校区)の2万5千分の1の地形図を使って、地図上の距離と実際の距離を感覚的に理解させたり、地図記号や道路、等高線等を読み解かせたりする学習も考えられる。自分の住んでいる地域を地形図で表すという具体と抽象の往復運動を行うことで、イメージをもって地形図に親しむことができる。
- 地図帳を使って、地図を読図しながら旅行したり、周りの情景を説明させたりする活動を組み込むことも有効である。

【 特に定着を図りたい問題 ② 】

4 (1) 1840年や1867年等の世紀を問う問題
 <H18:45.7%(中1) → H19:54.0%>

(資料)

世紀	主なできごと
(A) 世紀	アヘン戦争がおこる (1840年) ①
	⇕ B
	薩長同盟が結ばれる (1866年) ②
	大政奉還が行われる (1867年)

(1) 資料の (A) にあてはまる数字を答えよ。

出題のねらい

- 昨年度は中学1年の問題で出題し通過率が低かったので、本年度も類似の問題を出題し改善状況の把握を行った。昨年度より通過率は向上しているが、54%に過ぎない状況である。1年生の項でも述べたが、世紀のとらえ方についての理解が定着していないことが原因である。

学習の重点

- 前年度の「基礎・基本」定着度調査において課題がみられた事項については、補充指導を行うとともに繰り返し指導を継続する必要がある。
 例えば、「基礎・基本」定着度調査の問題の資料を使って、定期テストや小テストに活用したり、資料は同じで問いのレベルを変えて出題したりするなど、調査問題の有効活用を図っていきたい。
- 1～100の100のまとまりが世紀の基本であることを、生徒が理解しやすい具体的な事例で説明し、生徒が納得した指導法について情報交換していくことも大切である。